

I 「教会がキリストに従う（まずキリストが命をかけて愛され、その愛に応じて喜んでキリストにお従いする）ように、妻も、すべてのことにおいて（間違っている事にも従うのではない。助け手として、夫が間違っている時、尊敬を失わずに注意をし、主の喜ばれる道を歩めるように助ける）夫に従うべきです（夫を神によって、かしら、リード、決断する者として、立てられた器として尊敬し、立て、仕える）」：24。

II 「夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなた方も、自分の妻を（命を懸けて、自己犠牲の愛で）愛しなさい」：25。

夫の妻に対する関係は、支配ではなく、自己犠牲の愛。

1. 「愛しなさい」＝アガパオーの現在命令形。＝愛し続けなさい。

一時的、熱々の調子の良い時だけではなく。神と証人の前で聖なる誓いをしたように。誓いを思い起こす、忘れない（結婚記念日を大切に）。

互いに→「あなたは神の教えに従って、夫（妻）としての分を果たし、常に妻（夫）を愛し、敬い、慰め、助けて変わることなく、その健康な時も、病の時も、富める時も、貧しき時も、命の日の限り、あなたの妻（夫）に対して堅く節操（相手への真実な愛、浮気をしない誠実）を守る事を約束しますか」→「はい。神と証人との前で約束します」。

言うのは簡単だが、真実に守るのは神の助けなしにはできないとの深い自覚が大切。

※これから結婚を祈るキリスト者の祈り→「クリスチャン同士で結婚でき、主を中心に歩めますように」。II コリント6：15。

2. 夫は、まずキリストが教会（私達）を愛し、ご自身をささげられたように、神が与えて下さった自分の妻を、自分をささげて、心から命を懸けて愛する。自分の妻を→よその人への思い、浮気ではなく、神が与えられた自分の妻を大切にする。

3. アガパオー、アガペーの愛。人間のエロースの愛（求める愛）、フィレオー（好き、愛情）の愛、恋愛より大きく、変わらない深い神の愛、アガペーの愛（与える愛）をいただいて結婚生活を築いて行く。相手がしてくれたらではなく、こちらから先に喜んで犠牲を払う真実な愛。

神からいただくこのアガペーの愛は、私たちの間の愛を高める。恋愛の気持ちが冷えると消える愛ではなく、御霊によって新しくされた意志で愛する愛。

だから→18節の「御霊に満たされなさい」が、結婚の前に、土台である。

キリスト者が互いに愛し合い仕え合う愛は、主からいただくアガペーの愛、御霊の実である愛。権利のみを主張せず、御言葉を相手に当てはめず、むしろ、自分が、愛を持って自分の責任を果たす。愛を示す。

III キリストの素晴らしさ・キリストと教会の深い関係を現わす夫と妻の関係の本質

「キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられた」：25。

キリストは教会の花婿、教会はキリストの花嫁。

1. 「キリストが教会を愛し」。

主にとって教会は尊い存在。教会（私達）は、さまざまな欠点があるのに、主は教会を愛して下さる。主は教会の罪をきよめられる。

主は、教会がぼろを着て罪の放縦な歩みをしているのを見られたのに、それでも愛された。私達が不敬虔で、罪人で、敵対していた時に（ローマ5：6-10）、主は愛して下さった。主が教会、私達を愛されたのは、教会が立派だったからでも汚れがなくうつくしかったからでもない。罪で汚れきっていた私達への主の愛。感謝します。

2. 「教会（私達）のためにご自身をささげられた」：25。

感謝！

「だれも、わたしからいのちを取った者はいません。わたしが自分からいのちを捨てるのです」（ヨハネ10：18）。

主は、教会、私達を愛し、教会（私達）の為に自分から命を捨てて下さった。思っているだけではなく、語り、行動し、現わして下さった愛。相手（私達）が変わるのを待ち、相手（私達）の出方を伺うのではなく、自分から犠牲を払われた愛。私達も、この主の愛をいただき、相手が変わるのを待つのではなく、まず自分から愛を実践できますように！

3. 「わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。わたしは、良い牧者です。

良い牧者は羊のためにいのちを捨てます」（ヨハネ10：10, 11）。

主は、ご自身の権利や特権を考えずに、私達の大きな必要、つまり救いの必要を考えて下さった。主は、へりくだって、ご自身の権利と特権を捨て、しもべのかたちを取って命を捨てられた（私達なら？）。しかも十字架で死なれた。私達の身代わりに死なれた。私達を地獄から救うだけではなく、私達に命を豊かに与えられる恵み！

IV キリストの深い愛への教会（私達）の応答

1. 「詩と賛美と霊の歌とをもって、互いに語り（主の恵みを）、主に向かって、心から歌い、また賛美しなさい」：19。

2. 私達を命をかけて愛しておられる主を私達も愛し、喜んで主に従う。

「使徒たちは、御名のためにはずかしめられるに値する者とされたことを喜びながら、議会から出て行った」使徒5：41。

3. この主を愛し、互いに仕え合う。主の教会の一致を保つ。主に従い仕えることは、互いに人に仕える事と自覚する。

「キリストを恐れ尊んで、互いに仕えなさい」：21。

主に仕える心で、夫に妻に親に子に兄弟姉妹に、教会の兄弟姉妹に仕え、主の愛を示す。

「互いに足を洗い合うべきです」ヨハネ13：14。

主のように、へりくだり、相手の立場に立って、相手の心を理解する愛を祈り求める。

4. 主が人々を愛し、命をかけて成就された救いの福音、主の愛を人々に伝える。